

2016年2月28日 於:お茶の水女子大学 本館306教室

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシーフォーラム3

子どもたちの日本語の発達を 可視化する

—語彙・文法の方に焦点を当てて—

<本フォーラムの趣旨>

齋藤ひろみ(東京学芸大学)

多様な言語文化背景をもつ子どもの日本語の発達を可視化

子どもたちの呼び方…課題認識

- ・多言語背景で日本語を学習
- ・JSLの子ども(西川科研)
- ・外国人児童生徒(齋藤科研)

可視化…語彙・文法に焦点化

- ・SPOTテスト+漢字テスト(酒井)
- ・特定語彙(動詞)の調査(西川)
- ・課題作文の分析(齋藤)

議 論

- 各研究の可視化の対象・方法から、かれらの日本語の発達上のどのような課題が把握できるのか？
- 可視化した結果を、複数言語環境にある子どもたちの日本語・教科学習の支援にいかに生かすか？

<報告する科学研究費研究>

- 2011-2015科学研究費基盤研究(C)研究課題番号:23520619「日本語を母語としない子どもの語彙とコロケーションの知識に関する研究」代表:西川朋美(お茶の水女子大学)
- 2013-2017科学研究費基盤研究(B)研究課題番号:25284092「多言語背景の児童を対象とした多層分岐適応型日本語力診断オンラインテストの開発」代表:酒井たか子(筑波大学)
- 2014-2017科学研究費基盤研究(B)研究課題番号:26284071「地域・家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査研究」代表:齋藤ひろみ(東京学芸大学)

<言語能力を捉える枠組み>

①言語の技能(聞く・話す・読む・書く)

- ・文字言語スキル⇔口頭言語スキル
- ・受容スキル ⇔ 産出スキル

②言語能力(Backman&Palmer)

- ・文法能力(音韻／文字／語彙／語形成／統語)
- ・談話能力 (文章構成・会話構成)
- ・社会言語能力 (社会文化的規則／方言・変種／使用域／配慮表現)
- ・機能能力

③二言語併用児童の言語能力

(Cummins)

BICS(生活言語の力)／

CALP(学習言語能力)

➡3分類に CF／DLS／ALP

④発達心理学領域の知見として 一次的事ことば／二次的事ことば

(岡本夏木)

⑤リテラシー(OECDキー・コンピテンシー)

- ・社会的に異質な集団で交流すること
- ・自律的に活動すること
- ・道具を相互作用的に用いること

開会

<プログラム>

13:00

1 パネルディスカッション

13:10~14:40

多様な言語文化背景をもつ子どもたちの日本語の発達—語彙・文法に焦点を当てて—

発題1 酒井たか子(筑波大学) 発題2 西川朋美(お茶の水女子大学)

発題3 岩田一成(聖心女子大学) コーディネーター 齋藤ひろみ(東京学芸大学)

* * * * * 休憩(移動) 14:40~14:50 * * * * *

2 分科会 —各科研の報告—

14:50~16:20

分科会1 西川科研 306教室 西川朋美、青木由香(富山県西部教育事務所)

分科会2 酒井科研 124教室 加納千恵子・小林典子・酒井たか子・関裕子・加藤あさぎ(筑波大学)、甲斐晶子(桜美林大学)

分科会3 齋藤科研 125教室 森篤嗣(帝塚山大学)、橋本ゆかり(横浜国立大学)

工藤聖子・齋藤ひろみ・菅原雅枝(東京学芸大学大学院)

* * * * * 休憩(移動) 16:20~16:30 * * * * *

3 分科会報告

16:30~17:00

閉会

17:00

パネル・セッション 13:10-14:40 306教室

多様な言語文化背景をもつ子どもたちの日本語の発達
—語彙・文法に焦点を当てて—

発題1 「多言語背景の児童を対象とした日本語力診断テストの開発」

酒井たか子(筑波大学)

発題2 「日本語を母語としない子どもの語彙とコロケーションの知識に関する研究」

西川朋美(お茶の水女子大学)

発題3 「地域・家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する
調査研究— 出来事作文にみられる「話しことば」の使用(作文チェッカー
の開発とその活用)」

岩田一成(聖心女子大学)

コーディネーター 齋藤ひろみ(東京学芸大学)

分科会報告 16:30-17:00 306教室

子どもたちの日本語学習を支援するために

各科研の日本語の発達状態の可視化
どんな課題が把握できたのか？

- ・共通の背景をもつ子ども集団とし
- ・個人のレベルで

可視化の結果を解釈するには

- 知識か運用能力か？
- 社会化や認知的発達との関連は？
- 言語環境との影響は？
- 教育・支援内容・方法によるものか？

教育・支援現場の
実践に対し、何を示
唆できるか。

- ・言語能力／学習
状況の把握
- ・教育内容の選択
- ・実施方法の決定
- 日本国内で
- そして 海外で

第3分科会 補足情報 齋藤科研のプロジェクトに関して

1 研究の概要

(1) 目的

日本で生まれたあるいは幼少期から日本で育っている(以下、日本生育外国人児童)のリテラシーの発達に関し、その重要な要素である書く力の発達を、かれらの作文の分析を通して明らかにすることを目的とする。

(2) 方法

日本生育外国人児童の作文データを収集し、多様な側面から分析を行い、その結果を統合して、作文力の発達について考察する。

(3) 結果の社会的・教育意味

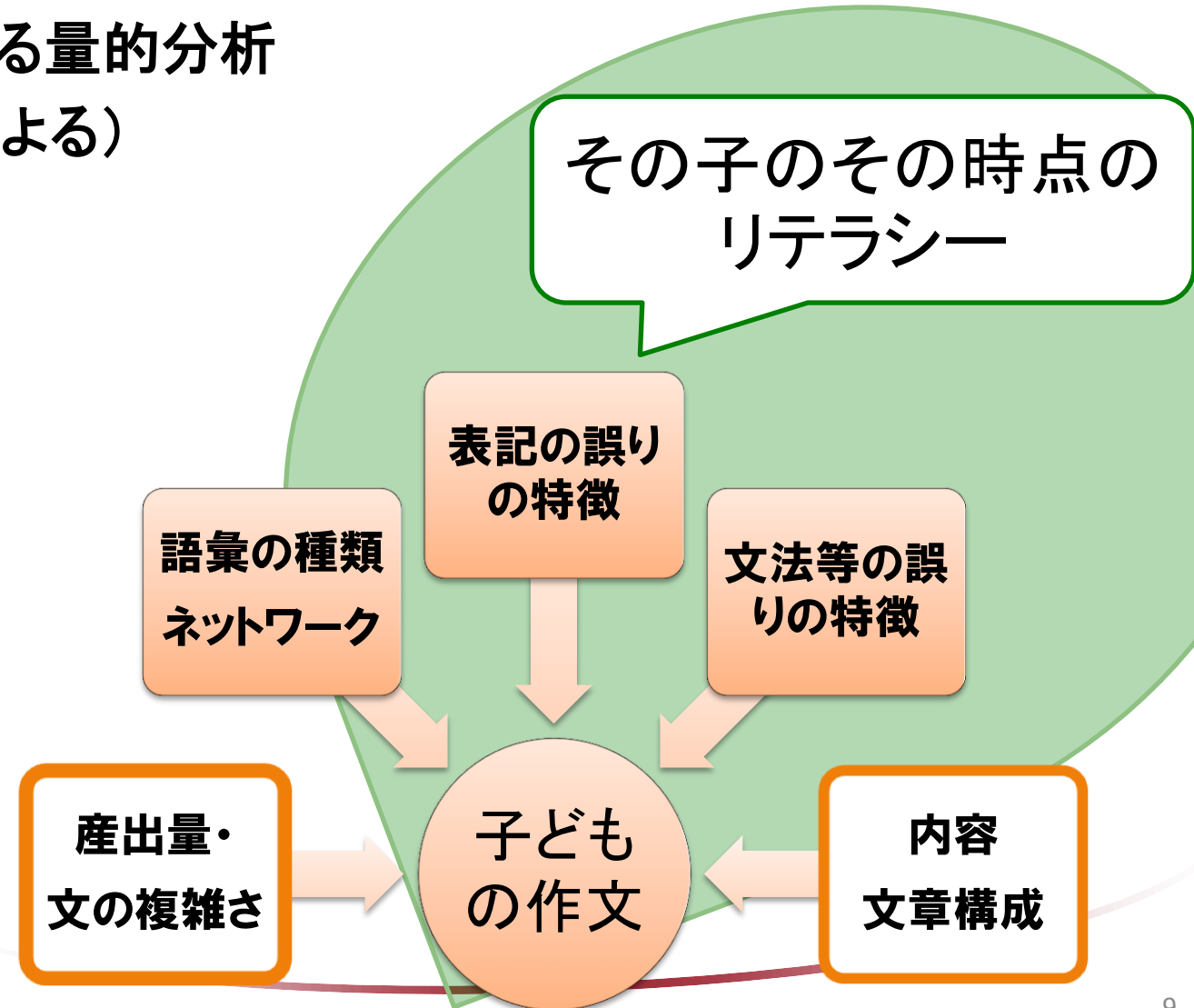
日本生育外国人児童への言語教育の内容と方法に関し有益な情報を提供

(4) 多面的な分析(これまでの)

- ①作文の産出量・文の複雑さに関する量的分析
- ②語彙の分析(テキストマイニングによる)
- ③表記の誤りの分析
- ④文法等の誤りの分析
- ⑤ルーブリック評価による内容分析
- ⑥エピソード分析による
文章構成の分析



子どものリテラシー発達の
総体を捉えるための情報
(材料)



2 研究対象

(1) 学校

- ・首都圏の外国人が集住する地域の
小学校
- ・H25年度、全校児童(約160人)に
占める外国人児童は75%強
- ・日本生まれの外国人児童が80%以上
母国生れは20%以下
(その約70%が就学前来日)
- ・背景文化
ベトナム 1/2、中国 1/3、
その他にカンボジア、ラオス、ブラジル、
フィリピンなど

(2) 作文

- ・2008年より毎年6月に収集
- ・全児童(日本人児童を含む)の作文
- ・「全校遠足」をテーマとする「出来事作文」
- ・2年生～6年生までの作文
- ・教師の指導が入っていない

※外国人児童:

保護者が日本語以外の言語文化を母語・母文化とし、家庭内に日本語・日本文化以外の言語・文化がある児童生徒。日本籍をもつケースもある。

3 2008-2013作文の横断調査の結果

対象作文 838作文

日本人児童作文(J) 281

外国人児童作文 日本生まれ(F) 450

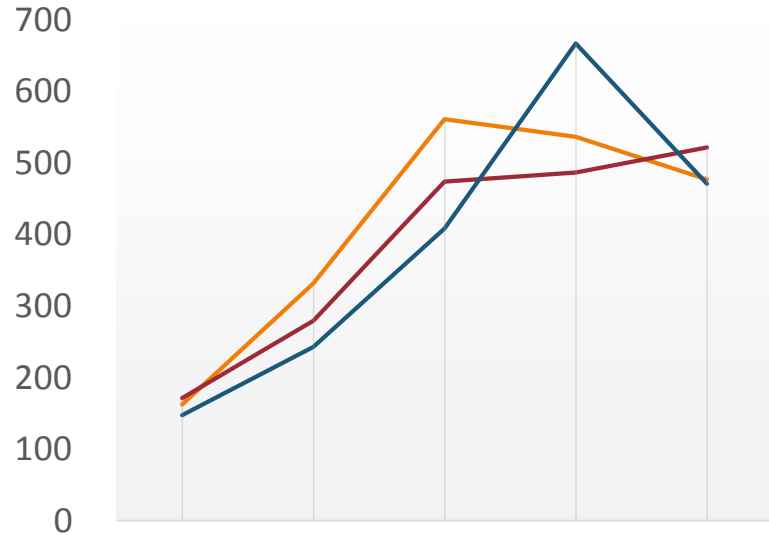
母国生来日(F母)107

	ベトナム	中国	カンボジア	ラオス	ブラジル	フィリピン	バングラディッシュ	国際結婚	計
F 450	274	93	34	28	1	2	7	11	450
F母 107	28	56	5	0	10	7	0	1	107
	302	149	39	28	11	9	7	12	557

2年 154	2 F	89
	2 J	46
	2 F母	19
3年 182	3 F	100
	3 J	53
	3 F母	29
4年 187	4 F	98
	4 J	68
	4 F母	21
5年 164	5 F	84
	5 J	60
	5 F母	20
6年 151	6 F	79
	6 J	54
	6 F母	18

作文基本量①(2008-2013の全作文)

文字数(2008-2013作文)

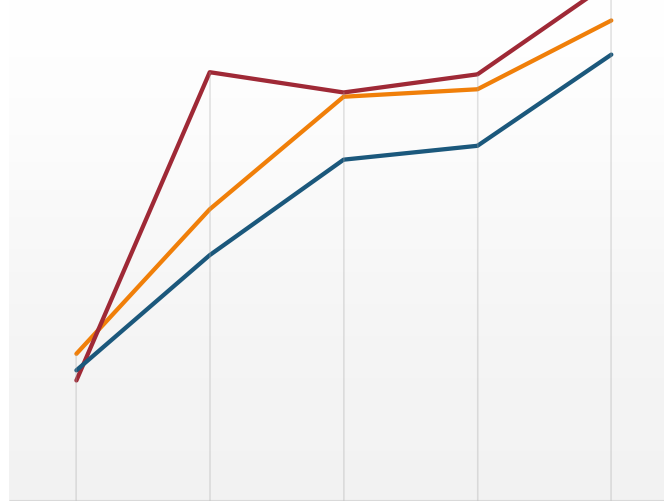


2年 3年 4年 5年 6年

— F — J — F母

1文の平均文節数
(2008-2013作文)

6.00
5.50
5.00
4.50
4.00
3.50
3.00

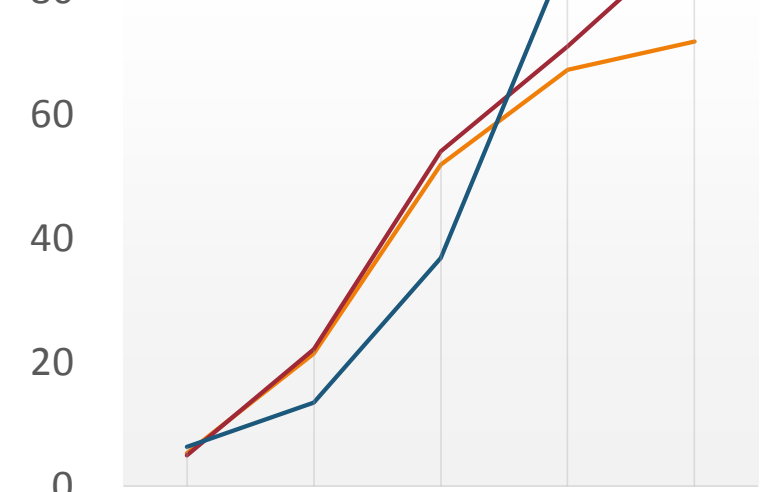


2年 3年 4年 5年 6年

— F — J — F母

100

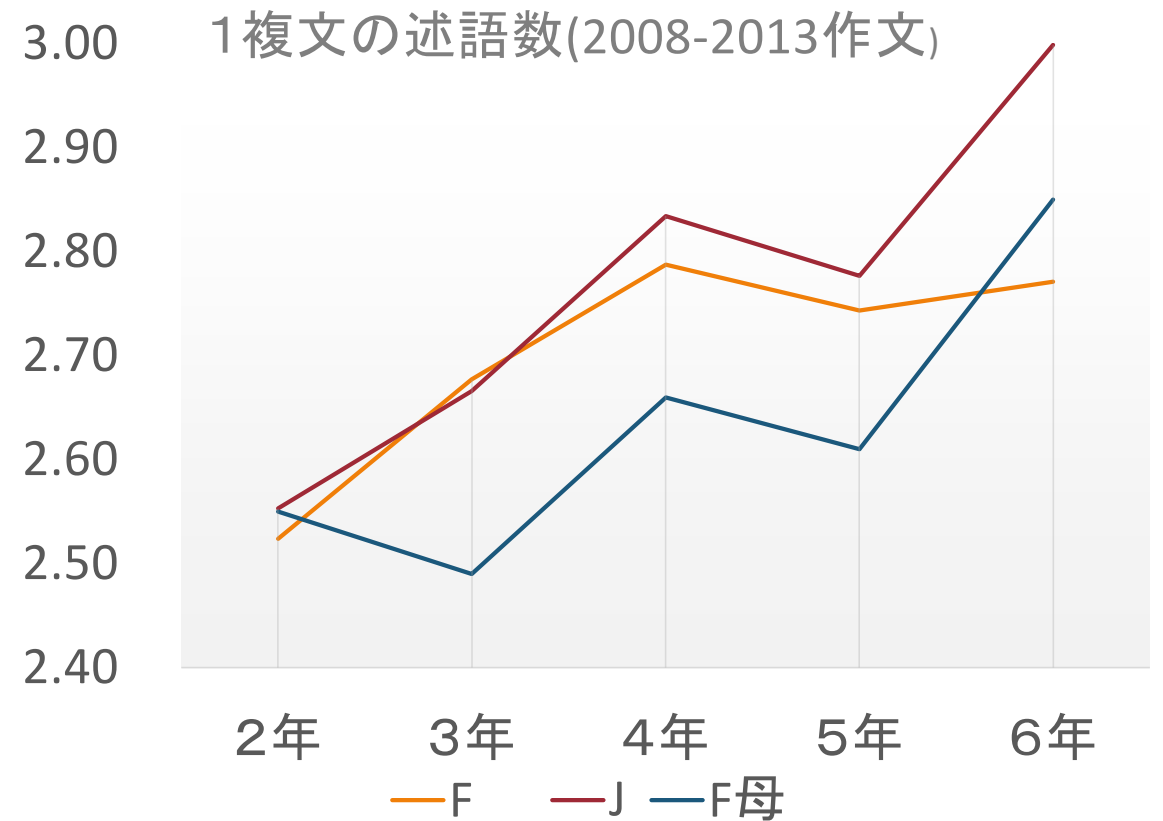
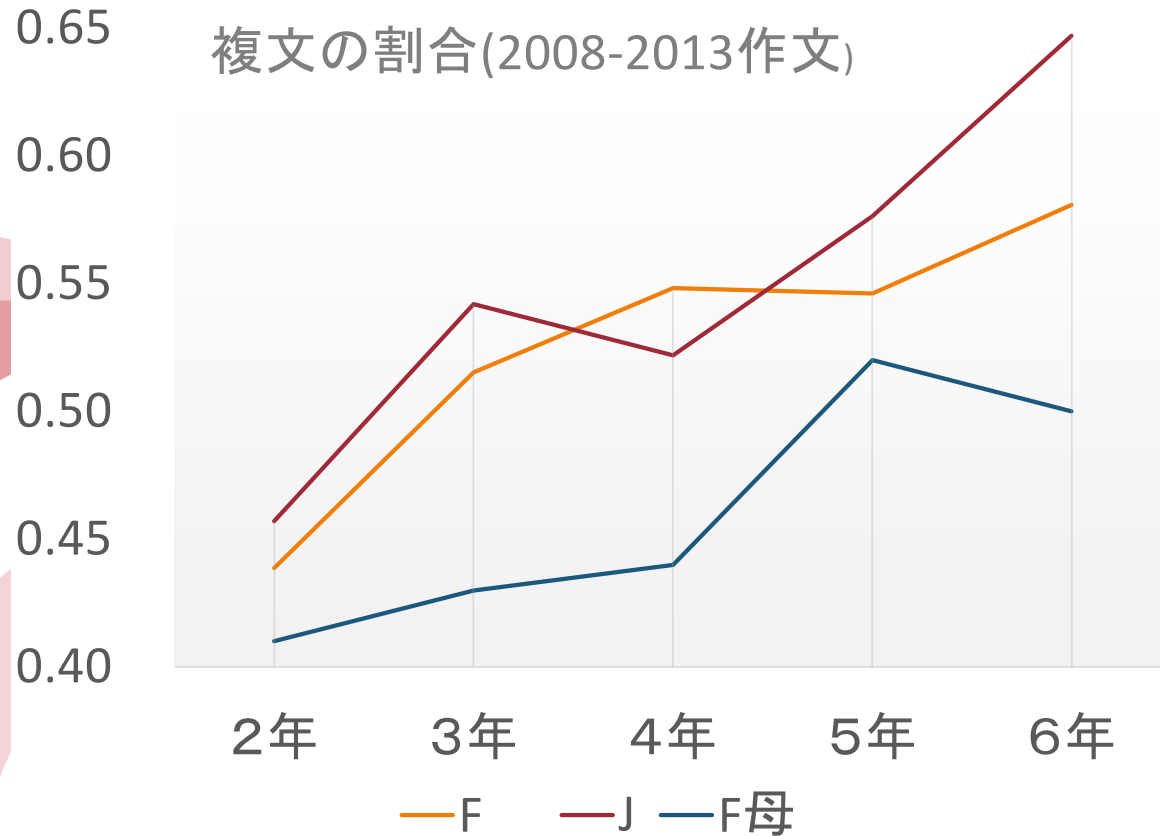
漢字数(2008-2013作文)



2年 3年 4年 5年 6年

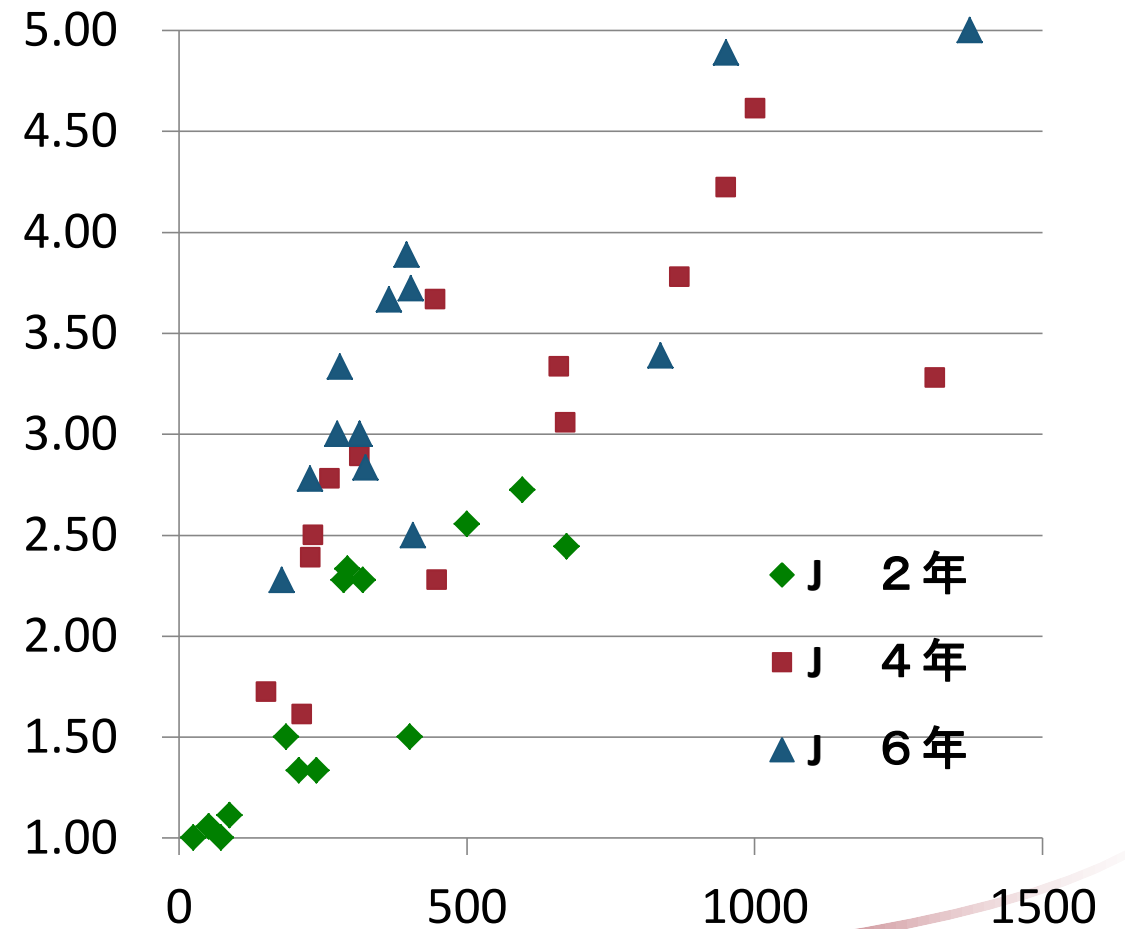
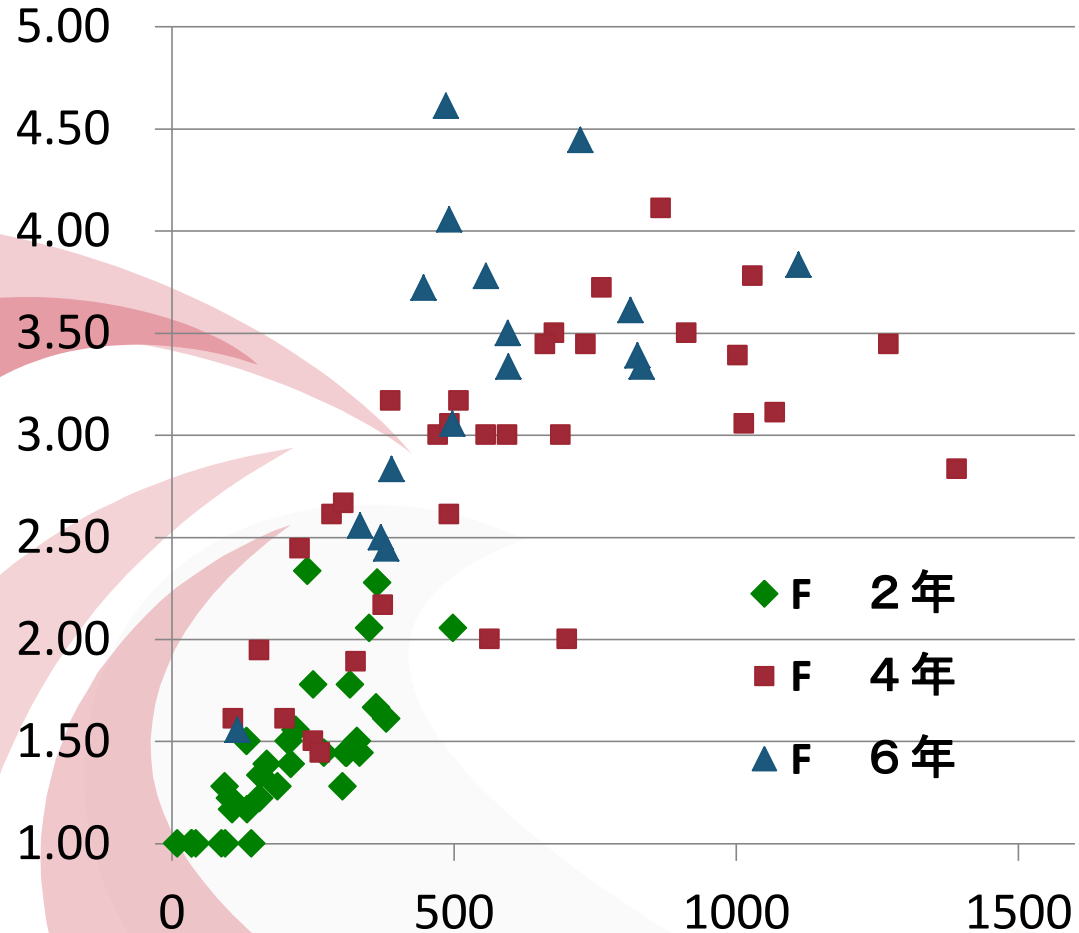
— F — J — F母

作文基本量②(2008-2013年の全作文)



齋藤他(2014)の2008-2011作文の分析結果と同じ傾向

5 縦断調査の結果 F:33人 J:14人の2-6年の作文 産出量(文字数:横)と内容評価(縦)



- ・岡本夏木(1985)『ことばと発達』
- ・ドミニク,S.ライテェン・ローラ,H.サルガニク編著、立田慶裕監訳(2006)『キー・コンピテンシー 国際標準の学力をめざして』明石書店
- ・Backman,L.& Palmer,A.(1996) *Language testing in practice*. Oxford, UK: Oxford University Press
- ・Cummins,J.(2000) *Language, Power and Pedagogy Bilingual Children in the Crossfire*. Clevedon, UK : Multilingual Matters

<本科研関係>

- ・齋藤ひろみ・鳶田陽子・菅原雅枝・森篤嗣・阿部志野歩・北澤尚(2014)「日本生育外国人児童の作文力に関する調査—小学2-6年生の「出来事作文」の計量的分析—」『国際教育評論』No.11, pp.53-65
- ・齋藤ひろみ・森篤嗣・北澤尚・菅原雅枝・鳶田陽子・工藤聖子・阿部志野歩(2014)「日本生育外国人児童のリテラシー発達を追う—作文縦断調査の多面的分析」『社会言語科学』第16巻第2号, pp.90-98
- ・齋藤ひろみ(2013)「日本生育外国人児童の作文力の発達—出来事作文の多面的な分析を通して—」第24回第二言語習得研究会全国大会予稿集pp.64-69
- ・齋藤ひろみ・鳶田陽子・工藤聖子・内田紀子(2013)「外国人児童の作文能力に関する縦断研究—小学2~6年の「出来事作文」の内容分析を通して—」2013年度日本語教育学会春季大会予稿集pp.303-304
- ・阿部志野歩・菅原雅枝・田中瑞葉・内田紀子・鳶田陽子・齋藤ひろみ・森篤嗣(2014)「日本生育外国人児童の文法力の発達に関する縦断研究—作文に現れた誤りの分析を通して—」2014年度日本語教育学会春季大会予稿集pp.361-362
- ・齋藤ひろみ・内田紀子・鳶田陽子・菅原雅枝(2014)「日本生育外国人児童の文章構成力の発達に関する研究—出来事作文の分析を通して—」2014年度異文化間教育学会pp.208-209